平成29年度　第1回西区教育ミーティング　会議録概要

開催日時	平成２９年度６月２８日（水）午後１時１５分から午後3時まで
会　　場	西区役所健康センター　1階　大会議室
出 席 者	西区自治協議会委員　出席２５名 教育委員：沢野教育委員、上田教育委員 事務局：教育長、教育総務課長、地域教育推進課長、学校支援課課長補佐、坂井輪図書館長、坂井輪地区公民館長、西区教育支援センター所長 西区役所:西区長、西区副区長、地域課長、地域課課長補佐 傍聴者：１名
議　　事	1　開会 2　教育委員挨拶(沢野教育委員、上田教育委員) 3　平成29年度教育委員会の施策について(教育長) 4　意見交換(司会　西区教育支援センター所長) 主な視点 ○　地域で子どもを育てるために、地域と学校の関わりからみえてきた現状、今後必要と考える取組 ○　より良い地域づくりのために、地域の皆さんと、公民館などの社会教育施設や学校とが協働してできることは
自治協委員	地域と学校パートナーシップ事業を良い取り組みだなと思って毎日取り組んでいる。コーディネーターは私をはじめ長く続けている方が多いので、地域課題や地域の今の問題点が見えてきており、地域の人にとっても、学校のコーディネーターの顔が見えてきている。 学校は先生方が、一定期間で変わってくので、取り組みの継続性が少し難しく感じる。 うちの自治協議会では、調和の取れたつながり方、お互い負担にならず、いい形で行えている。ワークライフバランスを先生方も考えていかなければならない。 多忙化する中での地域と一緒にやる事業について、立ち位置というものをコーディネーターも先生方も、地域も一緒に再認識することが、よりこの活動がうまくいく方法なのではないかと強く感じている。
教育委員会事務局	地域と学校パートナーシップ事業は今年度で11年目。その中で成果が挙げられると同時に課題も挙がっている。 １つ目の課題は、異動で変わる先生方がどのような学校や子どもたちにしたいかということと、地域教育コーディネーターや、自治協など地域の思いが一致して、同じ方向を向くこと。 時には、ずれていくこともあるので、お互いの立ち位置を理解するための取り組みが必要。そのためには、学校が地域とどのように連携しているかという取り組みの様子を公開する「地域と学校ウェルカム参観日」を行い、学

	校は学校としてどこが良い点か、改善すべき点はどこか、地域からは学校の取り組みを知ってもらい、自分たちのできることを考えてもらう機会とする。 　地域の皆さまはこの地に根差す「土の人」で、学校職員は数年で異動して行く「風の人」。その地域のことを一番よく知る土の人と新たな認識や考え方を持ってこの西区にやって来る風の人が一体となって、その実態をつくっていくことが新しい風土が生まれることにつながる。 　お互いを知るというところが一番の課題である。
自治協委員	この地区はコーディネーターたちのご努力で、すばらしいパートナーシップ事業が展開されている。 　これを進めるには、課題に対して解決の知恵も、お金も、労力も必要だが、一番難渋なのは時間ではないか。 　総合の時間の使い方が難しくなっている中でどうやって学校教育に携わる先生方と連携するか、この素晴らしい事業を、ぜひ続けてもらいたい。 　教員の過重労働が話題になっており、労働時間が長いのは、部活があげられるが、例えば教頭先生の勤務時間は、その大半が保護者、地域と関連することに対応する時間だそうだ。 　いじめだけでなく、地域連携の事業での連絡、調整をどう調和して、この活動を学校の子どもたちに行っていくかということは、本当に大事。
教育委員会事務局	学習指導要領で今後、小学校では道徳が教科になり英語が入ってくる。 　総合の時間を減らすことなく、どう教育課程を組んでいくか真剣に考えている。先生方が多忙にならないように、新しい教育への対応を具体的に示さねばならない。 　今年、本格的に部活について話し合う検討委員会を立ち上げる。部活は生徒指導的な側面もあり、部活の中でいきいき輝く子どもたちもいる。 　多忙化解消と部活のより良いあり方を、今年から検討している。
自治協委員	いじめの問題について、可能な限り一般の方々に分かるようにその対応、結果など、自治協なり、関係各所に伝えてほしい。 　２点目はパートナーシップ事業について、先ほどの発言に非常に私は大賛成だ。ただ西区においても、市街地と農村というか、地域事情もあるので、よく加味して一律ではなくやってほしい。各学校の温度差があるのではないか。これも急にやらず、一つひとつ進めてもらいたい。 　小規模校、中野小屋とか、赤塚というところの地域住民とＰＴＡは、一生懸命やっている。防災教育というのを中野小屋中学校でやったが、校長先生はじめ、みんな、私はすばらしいなと思った。 　防災教育にまだ興味のない学校もある。 　小規模校については、アクション事業なんかも、赤塚とかやっており、そういった学校に注目してもらいたい。 　新潟市全体のことを考えて、これから遂行してもらいたい。

	地域コミュニティ活動活性化支援事業でコミュニティ・コーディネーター育成講座を坂井輪公民館でやっているが、コミ協なり、自治協の要望があったら、講座で学んだことを地域に行って応えるように、カリキュラムの中に入れてもらいたい。 公民館について、特に都市部においては、自治会やコミ協の集合場所が小さく、一定の会合を持てない団体があり、優先的に公民館を予約できないか。これは坂井輪の公民館といっても、制度設計の話で難しいことだから、公民館の担当部署から回答をいただきたい。
教育委員会事務局	いじめを見逃さない学校づくりには、教育委員会も学校も取り組んでいる。児童、生徒との信頼関係をつくるため、教師と子どもたちの距離を近くする、関わり合って、話し合って、子どもを見るということをもう一度徹底する。互いに認め合う人間関係をつくること、学校自体が温かいものにすることで集団づくり等にも取り組んでいる。 一番変わったのは、いじめの定義が変わって、「子どもがいじめられたと感じたら、それはいじめだ」ということ。だから、いじめの発生件数はものすごく増えているが、私たちが求めているのは、それをいかに解決したかという、いかに回避できたかというところ。 学校では、教育相談とかアンケートを取って、とにかく子どもの声を聴く。 子どもの訴えに耳を傾けることをやり、その上で何かいじめに関することがあったら、担任が抱え込まずに管理職を含めていじめ対応ミーティングをして、記録を取り、すぐに教育委員会に上げる。 さらに、いじめがいったん解消したと見えても油断せずに３カ月、長い間継続して見ていく。子どもの居場所・学校の土台をしっかりする。そして子どもをよく見る。学校全体で解決に取り組む。長く見ていくということを徹底しようと、今学校とともに取り組んでいるところ。
教育委員会事務局	パートナーシップ事業に取り組むのは、小学校や中学校、特別支援学校もあり、規模の大小もある。それぞれの地域の伝統や文化もあり、私たちは全て一律にという話をしない。各学校区らしい取り組みをしてほしい。 学校が忙しいというご指摘をいただいたが、ある所に集中をして、それが一番うちの地域の子どもたちにプラスになるという合意を学校と地域でし、力を出し合うことが一番いい。
自治協委員	今回、この資料に立仏小学校の「あそぼうさい」を載せてもらった。これは公民館と学校と地域がみんな一緒にやっていることだが、その中心になっているのは、小学校のコーディネーターだと思う。 コーディネーターもいろいろな所と連携を取ってくれ、話がスムーズに通っていくのだが、コーディネーターの負担がとても大きいのではないかと思う。 ふれあい協議会の各部署でお手伝いをし、連携してやっていければいいと思う。

教育委員会 事務局	地域教育コーディネーターの皆さんは学校の職員、非常勤の公務員として勤めているが、本当に仕事内容は年々増えてきている。 パートナーシップ事業が広く知られるようになって、コーディネーターへの要望が増えている状態。 コーディネーターの負担のことも、その学校、その地域に応じた活動に重点、焦点を当てて、学校も地域も考えながら進めてもらうことが一つ。 対応、待遇についても、粘り強く関係各課や国に要望を出して行きたい。
事務局説明	坂井輪地区公民館長 地域コミュニティ活動活性化支援事業について、西区内の公民館がどのような事業を実施しているか資料に基づき説明 坂井輪図書館長 新潟市の図書館の特徴について、６つに絞って資料に基づき説明
自治協委員	公民館長にお話を聞きたい。 コミュニティ・コーディネーター養成講座の卒業生は何人ぐらいか。 実際にコミュニティに対して支援活動されている方が何割ぐらいか。 私もまちづくり協議会を担当して丸３年だが、活動が活発化するための人材を確保したいと日頃思っている。 いろいろな活動が活発化に火が付き始めているが、卒業された方から、習った知識を地域に生かしてもらう。または地域に行って、いろいろな活動を一緒にやってもらうことを望んでいる。
教育委員会 事務局	卒業生は、100名は確実に超えている。 集まった人たちは、西区だけではなく、かなり広範囲の人が集まっている。 西区で講座の終わった後にサークルとして活動をしているのは、去年のサークルが２つと、何年か前の寺尾中央公園を活用しているグループがまだ継続している。 最初は講座生として参加し、それから講座の内容の組み立てをやっている企画員の方々から、確かに講座を卒業する人が増えてはきているが、実際に地域に入っての活動に結び付いていないので、地域の人たちと一緒にまちづくりをやっていくことができないかという提案もあった。 そこで地元とそれを結び付けるということで、地域課が探している。 こちらに話が来れば、企画員の人たちと話をして、実際にどうやっていくかという話が進んでいくと考えている。
自治協委員	いじめについてのやりとりの中で、家庭の部分が出てこないが、家庭がある程度しっかりしていないと、学校だけに責任を負わせるというのが少し酷かなと考えている。 いずれにしても家庭と学校と、そういう意味ではうまく連携を取りながら対応していくというのが大事なのかなと思っている。
教育委員会 事務局	学校と家庭が同一歩調で取り組んでいかなければうまくいかない。学校も教育委員会も精一杯やるので、家庭もぜひ学校を信頼して、一緒になって取

	り組んでいただければと感じる。 いじめの問題はどうしてもプライバシーの問題もあって、なかなか広くとはならず、学校と家庭に限定されてしまう。そういう問題があったら、地域の方にも学校と一緒に頑張ろうと励ましていただければと思う。 子どもの中でも解決できる、いい学級集団をつくりたいと思っている。 嫌な気持ちになった子がいたら周りの子がさりげなくサポートしてあげる、そういう集団をつくりたい。 支え合う学級、学校づくりに取り組んでいる。
自治協委員	学・社・民融合のパートナーシップ事業については、地域教育コーディネーターが重要な役割を果たしている。 青少年育成協議会の立場からは、地域の子どもは地域で守り、地域で育てようというスローガンを掲げて活動をしている。 青少年育成コーディネーターという制度がかつてはあったが、これが全国的になくなった。新潟市地域教育コーディネーターと同様な社会教育の一役を担う青少年育成コーディネーターといった制度なども必要なのではないか。 担い手はＰＴＡの役員を経験した方々を対象とした一種の資格的な名称があれば、もっと有効に作用していくのではないか。
教育委員会事務局	地域教育コーディネーターは、国の補助金が出るということで誕生し、継続して取り組んでいる。 青少年の健全育成について、コーディネーターの育成を国がという制度については承知していない。 新潟市としてありがたいのは、それぞれの地区の育成協議会の皆さまが、独自に自分たちの地域の子どもたちを自分たちで守り育てていこうとの思いでやっているところである。 それを次の世代に引き継いでいくことが可能なのか、引き継ぎ手がいるのかということを、各地区の育成協議会では課題ととらえている。 学・社・民の融合による教育という点では、さまざまな団体が子どもたちをその地域で育てましょうという点では一致している。そこに関わっていくような連絡調整などを教育委員会に任せるのではなく、それぞれにしてもらう必要があると思う。 やはり一緒になって考えていきたいと思っている。
自治協委員	ウェルカム参観日の中で、小針小学校が「いっぺこーと」で「ＫＯＢＡ弁」を販売していたが、非常に子どもたちが生き生きとしていて、大変良い企画だなと思った。 自治協においてこれまで防災関係をやってきたのだが、教育委員会でも５年間やるとのことで、お互いに良い成果が出ていると思う。 これからお互いの意見を出し合って、さらにより良いものにできないかと考えている。

自治協委員	いじめの発見で、地域で何ができるかと考えるとふれあいスクール事業がある。 放課後の子どもたちの遊び場を地域の方たちが支援するという活動の中で、いじめなのか、からかいなのか、遊びなのか、今の子どもたちには、地域の大人が見て分からないような表現がすごく多い。 子どもの世界では許されても、私たちの中ではためだということを子どもたちに話して聞かせる。 子供たちの言葉づかいや活動を文章にして日記に残して、学校の先生方にも見てもらっている。すると、先生方が見えているのは、家庭で聞く、家庭での子どもの姿と、学校のクラスの中で見ている子どもの姿。もしかしたら別の場所では違う一面を見せているのかもしれない。 私たちがメモ程度に書いた日誌を職員室回覧にして、関係の学年の先生のところに置いてもらうなどしている。 コーディネーターとしてのお願いがある。ふれあいスクールのスタッフやボランティアの募集チラシや案内が地域に出回るので、ぜひそこに目をとめていただいて、お友達でも、お知り合いでも協力してほしい。
自治協委員	防災教育について、立仏小学校などは、地域も先生も生徒も、すごく良い取り組みをしている。しかし中学校では防災教育が授業であったとしても、地域との連携ができていないように思う。 地域に、自治会に帰ると、動けるのは、みんな退職された年齢を重ねた方ばかりなので、実際何かあったときに中学生がすごく力になると思う。 地域の力になることは、自分のために有意義なのだということを、中学校の中でもお話いただいて、機会があれば私たちも努力しますので、先生、生徒、公民館の全ての取り組みを一緒にして、防災訓練ができればと思う。
教育委員	新潟市で取り組んでいるパートナーシップ事業は、地域と学校、そしてコーディネーターの働きからなるすばらしい事業であり、それぞれの地域や学校で、今もすばらしい事業が展開されていると思っている。 特に子どもたちも学校で勉強を学ぶだけではなくて、いろいろな地域に出かけて、人と触れあい、物を見たりすることは、興味も広がり、自分の秘めている可能性も見つけ出すことができるのではないかと思う。 今までやってきた事業をただ継続するということではなく、これはもう少し考えたほうがいいことや、もっと課題があるということを、今日皆さまからお話いただいたかと思う。 いただいたご意見が少しでも反映できるように、私たちも意見を交えながら、今後のパートナーシップ事業に役立てるように、検討していきたい。
教育委員	いじめがあったときに、一家庭人として、親が子どもをどうとらえるのか。子どもはさまざまな顔を見せるので、学校と家庭で連携して分かるには、私が育てていたころよりは、先生と保護者とのコミュニケーションがとても大切だと思う。

	少し希薄になっているのではないかなという気もするので、ぜひこれを強くして学校と家庭の連携を強めていきたいと思う。
議　　事	5 西区自治協議会会長挨拶 新潟市の教育ビジョン等について根幹に据える学・社・民の融合による教育の推進に向けた取り組みなど、各委員からの質問などを交えながら、担当課と活発な意見交換ができたと感じている。 学校の子どもたちが健康で明るく、笑顔であふれる西区にしていきたいと、私ども一生懸命努力しているので、これからも活発なご意見、助言等をお願いしたい。 6 閉会